



農機事業の成果に賞

1月27日(土)、JA農業機械パワーアップ運動成果発表大会が秋田キャッスルホテルで開催されました。当JAが共同購入トラクター計画達成JA賞を受賞したほか、多くの農機担当職員が入賞し、日頃の農機事業での尽力が称えられました。

当JA職員の受賞は次の通りです。(カッコ内は農機センター名)

- ◎メーカー表彰【サタケ賞】▽敢闘賞Ⅱ三浦芳人センター長補佐(払戸)【静岡製機賞】▽最優秀賞Ⅱ石塚栄太職員(追分)▽優秀賞Ⅱ進藤豊一職員(払戸)【やまびこジャパン賞】▽優秀賞Ⅱ本川昭宏職員(同)▽敢闘賞Ⅱ小松毅係長(雄和)【新人賞】渡辺結人職員(同)、柘植省吾職員(同)

表彰を受けた農機センター職員



「サキホコレ」食味コン(農)下黒瀬ファームが優秀賞

「サキホコレ」栽培技術向上フォーラムが、12月22日(金)に秋田キャッスルホテルで開催されました。同品種の販売情勢や令和5年産の作柄、農業系高校での試験栽培の事例などが発表されました。

「サキホコレ」の需要や生産の拡大に向けて高品質栽培への生産者意識やブランド力などの向上を促すため、食味コンテストが初めて開催されました。県内各地から出品された「サキホコレ」のうち、審査の結果、当JAの栽培研究会から秋田市雄和の(農)下黒瀬ファームが優秀賞に輝きました。

「サキホコレ」の品質の高さが評価されました



ネギ計画出荷強化などで販売額、単価増

1月30日(火)、ネギの実績検討会がANAクラウンプラザホテル秋田で開催され、生産者ら約60名が販売動向を確認しました。昨年大雨や酷暑を受けて、湿害や干ばつ害への対策や、品種の違いなども学びました。

12月末日時点の販売額は1億921万円で、出荷量は353トン。7月豪雨や高温による生育停滞などで出荷量が減少しましたが、計画出荷体制の強化などを行い、業務用を除く販売額は前年同期比128%の9207万円、平均単価は同比152%の1キロ当たり415円と向上しました。

ネギの生育経過を振り返る生産者ら



直売所向け野菜の栽培ポイントを学ぶ

1月29日(月)、直売所向けの野菜の栽培講習会が追分生活センターと雄和支店で行われ、トマトやナス、ピーマンなど多くの品目の品種や栽培管理の注意点を生産者が学びました。

講師の(株)高井南茄園の金野豊秋代表取締役が昨年の栽培を振り返り、直売所での出荷規格や市場出荷との消費者ニーズの違いなどもふまえて解説。「高温だった昨年でも、土づくりをして強い根を張ることができた人はしっかり収穫できた。各品目に適した温度や水で管理することも重要だ」と話しました。

野菜の品種特性を学ぶ生産者